

ワークショップ型研究会について（例）

埼玉県教育局東部教育事務所

1 ねらい

- (1) 参観者一人一人が、意見を言える場をつくり、明日からの授業づくりの意欲につながる研究会にする。
- (2) 授業者にとっては、多くの意見を聞くことができ、授業を踏まえ次の授業づくりに役立つ研究会にする。

2 研究会の進め方

- (1) 学習指導案作成前に授業者と打合せを行い、研究会のねらいと授業者の意向等を踏まえ、「私の授業の観てほしいポイント」を作成してもらう。
- (2) 各授業研究会での「私の授業の観てほしいポイント」と「学習指導案の展開」は、開催日1週間前には、東部教育事務所のホームページに掲載する。
- (3) 参観者は授業を参観しながら、「私の授業の観てほしいポイント」に沿って、付箋に気付いたこと、考えたことを書き込んでいく。

<付箋の活用方法> (付箋は、当日受付で配布します。)

青色：授業の良かった点

赤色：授業の改善点

黄色：改善提案（このような方法はどうか）

<グループ（班） 話し合いポイント>

①まず、司会（進行役）と発表者を立てる。

②次に、グループ内で、付箋紙の確認をする。

付箋については、

- ・「青色は、授業の良かった点」
- ・「赤色は、授業の改善点」
- ・「黄色は、自分の授業実践等を踏まえての改善提案」

③同じ意見ごとに整理（グルーピング）していく。

付箋のメリットは、貼り替えができること。随時動かしながら視覚化を図る。

④整理（グルーピング）できたら、囲みを付けたり、見出し、矢印を付けたりして、見やすいように構造化を図る。

⑤授業分析表は、「私の授業の観てほしいポイント」別になっている。

一番下に「まとめ」の欄があるので、必要に応じて、班内の話し合いで出たことを箇条書きにするなどして記入していく。

<グループ（班） 発表者の準備>

それぞれの班でまとめたことを発表し、参観者全員が発表内容を共有する。



(4) 指導講評

指導者が、本日の研究会全体のまとめとして、指導講評をする。

